

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070501057		
法人名	宗教法人天理教飯田市分教会		
事業所名	グループホームいこいの里		
所在地	長野県飯田市羽場権現1611-2		
自己評価作成日	平成27年8月9日	評価結果市町村受理日	平成28年3月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成28年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念に添って、住み慣れた地域社会の中で、自立とふれあいを大切に、豊かで明るく健やかに暮らせる様に、高齢者の共同生活の場を提供し、入居する高齢者がその有する能力に応じて自立した日常生活がいとむむことの出来るよう、支援、介護活動を行い共に「ようきぐらし」の出来る社会環境を作り出すことを目指しています。特に自分らしい生活をしながらも利用者同士が協調しあって暮らせるよう、職員一同介護技術の研鑽を重ねながら穏やかな雰囲気づくりを心がけています。当事業所は市内の高台に位置し大変眺めもよく周囲も自然に恵まれており、立地環境がそうした穏やかな雰囲気づくりに大いに役立っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の目指している「ようきぐらし(感謝・慎む・助け合い)」の理念を利用者が、自分らしい人生をお互いに助け合っていけるようにと、全職員で具現化出来るように日々の暮らしの中から前向きに取組み、施設面やケア全体を見つめなおし、より良い運営に向け取組んでいる。管理者は、地域の皆さんとの交流を大切にし、多くのボランティア訪問や中学校の福祉体験学習の受け入れ等、地域密着型サービスの意義を踏まえた取組みに努めている。管理者と職員は、ゆったりと優しく丁寧な一人ひとりの心情を察しながら、理念に密着する暮らしとケアの基本姿勢で方針を定め、その人の望む暮らしを支えている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
		2. 利用者の2/3くらい			1. ほぼ全ての家族と
		3. 利用者の1/3くらい			2. 家族の2/3くらい
		4. ほとんど掴んでいない			3. 家族の1/3くらい
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
		2. 数日に1回程度ある			1. ほぼ毎日のように
		3. たまにある			2. 数日に1回程度
		4. ほとんどない			3. たまに
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		2. 利用者の2/3くらい			1. 大いに増えている
		3. 利用者の1/3くらい			2. 少しずつ増えている
		4. ほとんどいない			3. あまり増えていない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
		2. 利用者の2/3くらい			1. ほぼ全ての職員が
		3. 利用者の1/3くらい			2. 職員等の2/3くらい
		4. ほとんどいない			3. 職員等の1/3くらい
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらい			1. ほぼ全ての利用者が
		3. 利用者の1/3くらい			2. 利用者の2/3くらい
		4. ほとんどいない			3. 利用者の1/3くらい
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらい			1. ほぼ全ての家族等が
		3. 利用者の1/3くらい			2. 家族等の2/3くらい
		4. ほとんどいない			3. 家族等の1/3くらい
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			4. ほとんどできていない
		2. 利用者の2/3くらい			
		3. 利用者の1/3くらい			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所は認知症高齢者の法令を理解し、事業所母体である宗教法人の「ようぐらし」「感謝・慎み・たすけあい」を理念としている。職員はこれを共有し、利用者、職員が共にたすけあい、なかよく暮らせるよう理念の実現に努めている。</p>	<p>事業所独自の基本姿勢の「ようぐらし」「感謝・慎み・たすけあい」の理念を掲げ、フロアに明示し、申し送り時に日々のサービス提供場面を振り返り、確認を行っている。更に、利用者と職員相互の「ありがとう」の言葉の中から、理念の共有の実践に繋げるよう努めている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>毎週地域のボランティアの方が来て絵手紙を教えてください。毎年地区の文化祭には作品を出展し、皆で見に行きます。運推を通して、地区のお祭りは山車がホームの庭できおいをしてくださるようになった。</p>	<p>普段の暮らしの中で、地域の祭りや文化祭等の行事に参加したり、ボランティアの訪問もあり、季節や行事の催しに関われるよう支援が得られている。ご近所からの野菜や果物のお裾分けがあり、普段着の交流を大切にしている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>市内の中学校の福祉体験学習の受け入れを継続し、認知症や介護施設の事を知ってもらえる機会を作っています。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度、自治会、民生委員、老人会、ボランティア、地域包括、ご家族の方にご参加いただき開催しています。地域の催し、災害時の協力体制等アドバイスをいただいています。地域の方々をサポートしていただきサービスの向上につながるよう努めています。</p>	<p>会議は定期的で開催され、ホームの活動や利用者の様子、事故等の報告を行い、また、防災や地域行事等のアドバイス頂きながら、意見交換を行っている。外部評価結果を報告し、運営に活かすよう努めている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議等で地域包括支援センターの方と現況お話し相談しています。また、必要に応じて相談させて頂いています。</p>	<p>評価結果報告や、事故報告等を通じた運営状況について担当者で相談・助言を得ている。ホームの増床など直面した課題解決に向けた話し合いや対応に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で勉強会を行い(資料の読み合わせや話し合い)身体拘束のないケアに努めています。玄関の施錠は夜間のみで、日中は施錠していません。	身体拘束に関する気づきをもつ事ができる研修を実施し、ベッ柵、高さ、ヒヤリハット、事故事例の検討を行い、利用者の尊厳や生活の個性等を損なわないように取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強会を行い(資料の読み合わせや話し合い)虐待について学び、決して虐待のない様努めています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は勉強会で学び、管理者は研修を受け必要人には活用し、また、活用できるよう支援しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際十分な説明をし、納得された上で印を押して頂き、契約を結んでいます。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族より気兼ねなく、意見が聞けるよう意見箱を設置しています。また、運営推進会議に参加を呼びかけており、会議のときに意見や、要望をお伺いしています。	多くの家族は月の1回来訪されるので、その時に利用者の様子を報告し、気づいた事を気軽に言ってもらえるように努めている。出された意見や要望等は全職員が共有し、ホームの運営に活かすよう取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やヘルパー会(職員会議)時に出た意見や提案は管理者、法人代表者へ報告している。その他随時相談し運営に反映している。	月例のヘルパー会に於いて、運営上の課題や利用者個々の生活状況や支援上の課題を話し合い、職員の業務上の意見や意向の交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用時に出来るだけ勤務しやすいよう、また、やりがいを持って勤務できるよう話を聞くようにし、雇用後も働きやすいよう環境や、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員がよりよいケアを提供できるよう、継続研修を年間1回以上受ける事を推進しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの管理者連絡会に参加している、職員が交流する機会を持ちサービスの質を高められるようにしていきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の安心と、関係づくりで一番大切な時期ですので、ご本人の思い、ご家族のお話をよくお聞きし、ご本人の思いを受け止めていけるよう心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み、不安に思っていることをよくお聞きし、少しでも不安が和らぐよう、また、安心して入居して頂けるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の事情をよくお聞きし、当施設内で出来るサービスを検討し、ご本人、ご家族に必要なサービスを第一に他所のサービス利用も含めた対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念にあるように、職員、ご本人が共に喜びをもって過ごし、お互いにたすけあい、お互いに感謝し合いながら日々を大切に過ごせるよう努めています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と、ご家族の生活歴や、事情をよく理解して、よりよい関係が続くよう努めています。ご家族との連絡を密に取り、報告や相談をしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	原則、月々のお支払いはホームでして頂く事になっており、月に1回は来て頂けるよう支援しています。また、ホームでの行事や、お花見などご家族の方に連絡し、一緒に楽しめる機会を設けています。	行きつけの美容院や墓参り、買い物など、家族の協力を得て関係の継続がスムーズに出来るよう支援している。また、ご近所の人に利用者の自宅に連れて行ってもらい、庭の手入れ等してもらおうなど、出かけていく場面を作っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの生活が違ってきたので、そのことを理解し、共に生活する者同士孤立することなく、関わり合いをもてるよう支援しています。事業所理念の下に陽気暮らしの実現に努めています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご相談等に応じています。また、解約時にその旨をお伝えることで退去後もフォローできるよう努めています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートを使用し、利用者本人及びご家族から聞き取りを行って、現状に対する思いや要望、希望をまとめ検討しています。半年毎に更新し見直しています。	職員は、日々の生活の中から、丁寧に利用者の思いや意向の把握に努め、言葉に出せない利用者にはうなずきや顔の表情で察している。これらの、気づき等を記録し、利用者の視点に立った支援に繋げるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族、関係者から情報を聞き把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が日々の生活の中で観察すると共に、必要に応じて本人や家族と話し現状の把握に勤め、毎日の引継ぎ時、及びヘルパー会の時に情報を共有し適切なケアが出来るよう努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を2ヶ月に1回は開催し、モニタリングを少なくとも半年毎に行うと共に、毎日の引継ぎ時やヘルパー会で各利用者の希望や思いに即した現状の課題とケアのあり方について話合っています。	記録やケアの実践ノートをチームで共有している。本人の思いや家族の意向、アセスメントを基に担当者会議に於いて意見交換が行われ作成している。	本人そして本人をよく知る関係者の意見やアイデアを出し合い、日々の記録、モニタリングに基づいて、話し合った結果を基に、本人らしい暮らしの支援に繋いでいくよう期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の経過記録と申し送りノートで情報を共有し、ケアへの実践に活かし、また、それを計画書の見直しに生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各利用者の状況とニーズをよく見極め必要な場合には他サービスも含めて本人、家族により良いサービスが出来るよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段から地域の方に絵手紙を教えてもらい、地域の文化祭に出品させて頂いている。季節の行事には地域のボランティアの音楽や催し物を活用し楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は、ご利用者、ご家族の希望に添えるよう支援しています。また地域の医師に事業所の主治医を勤めていただき定期的な往診や、相談のほか、緊急時に来ていただけることをご利用者、ご家族に安心していただいています。</p>	<p>今までの利用者のかかりつけ医を継続しつつ、協力医との医療連携が図られている。随時の往診や専門科への受診は家族が対応し、必要に応じて職員も支援しながら、個々の対応に備えている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけの看護師に相談等、連絡を取り合い、状況に合わせた対応が出来るよう努めています。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された際は病院関係者、ご家族と連絡を取り合い情報の交換等、ご利用者、ご家族が安心して治療できるよう努めています。また、協力医療機関にはそうした場合に備えて対応して頂けるよう関係づくりをしている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に対し、その都度本人や家族に報告と相談を行います。必要に応じて併設する施設や医療機関を利用することで対応しています。</p>	<p>入居時に重度化や看取りについての対応指針に基づき説明している。利用者の状態に合わせ話し合いを行い、職員で共有しているが、更に重度化・看取りに対する方針を共有しチームで支援していく体制を整えていくことを予定している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>施設内で勉強会を行うと共に毎日の引継ぎ時やヘルパー会等で注意点や対応例を話し合い備えています。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>事業所内での訓練、シュミレーションの他、運営推進会議で火災の他起こりうる自然災害と災害時の地域の協力体制について話し合いをもち、災害時には協力していただけることとなった。</p>	<p>避難経路に基づき、地域の方々の理解と協力を得て訓練等を実施している。利用者一人ひとりの避難方法を話し合い訓練を実践している。同法人間や近隣施設との連携、消防署の指導を頂きながら実践力を高める取組みがされている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を尊重し、一人ひとりに合った言葉かけや対応ができるよう努めています。また誇りやプライバシーを損ねないケアが出来るようヘルパー会や、日常の申し送り時に意見を出し、職員間で共有できるよう努めています。	トイレへの声かけや、話の内容に応じて声の大きさや場所などに配慮し、人生の先輩として尊重し、一人ひとりに合った対応を心掛けている支援が伺われた。定例会に於いても、言葉使いや対応について確認し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉がけなどで、ご本人の思いや、希望を引き出せるよう工夫し働きかけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの暮らしを把握し、できるだけ一人ひとりの生活リズム、希望に沿って、その人らしく暮らせるよう支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを尊重し、言葉かけや洋服選びなど支援をしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事が困難にならないよう、調理や食器を一人ひとりに合わせています。また皮むきや、食器拭き、片付けをそれぞれが出来ることを職員と一緒にしています。季節や行事に合わせて五平餅、おはぎを皆で作ったり、流しそうめんをしたりしています。	献立は、栄養士が作成するが、会話の中から希望を把握し献立に取り入れている。準備・片づけなど個々に応じて職員と共に行い、料理の出来栄を談笑し食事を楽しむ姿が見られた。季節や行事に合わせた食事等楽しみの支援がなされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の趣向も考慮しながら必要な水分や栄養を確保できるよう心がけると共に、食事の状況を引き継ぎ時報告するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>いつまでも美味しく食事が出来るよう、言葉がけや見守りをしています。状況によって介助をし、清潔、機能維持に努めています。また必要に応じては歯科を利用して頂いています。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>日中は全てのご利用者がトイレを使用しています。それぞれの排泄パターンを職員全員が把握し、失敗が少なくなるよう言葉がけやケアをしています。夜間は転倒の危険のある方はポータブルトイレを使用しています。</p>	<p>トイレでの排泄を基本支援として取組み、個々の生活状況に応じた排泄パターンや習慣等を把握し、一人ひとりに応じた可能な自立支援に努めている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>職員間で学ぶ機会を持ち、献立、個々に応じた食事形態の工夫、水分補給、体操など自然に排便できるよう取り組んでいる。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>週4日お風呂を準備しています。ご本人のタイミングや、体調に合わせて入れるよう支援しています。</p>	<p>利用者の思いや状況に配慮して入浴を促している。重度化の利用者には2人体制で対応し、抵抗感のある利用者にはタイミングを見計らって誘うなど利用者の気持ちや習慣に配慮し、ゆっくり気持ち良い入浴を支援している。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活のリズム、状況に応じ、寝具を含めその人が気持ちよく休息、睡眠をとれるよう、支援している。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医師や、薬局からの説明、資料をもとに個々にファイルを作成している。職員全員が把握し、また学ぶ機会を持ち理解に努めている。変化がある場合は医師に相談している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、掃除、食事の準備等の中で出来ることをして頂き、生活の張り合いや共同生活の役割を持って過ごして頂けるよう努めています。空いた時間には塗り絵や日記を書いたりしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気を見てお散歩に出かけたり野外でお茶を飲んだりしています。買い物や帰宅などについては家族と相談して行っています。	心身の状況や意向に応じて、四季折々の花見や散歩・買い物等に出かける楽しみを大切にし、外食や外泊等は、家族の協力を得ながら支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はご本人がお金を持つことの大切さを理解しています。ご本人や、ご家族の意向、現状を話し合い本人の希望に添えるよう支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎを希望された場合には対応している。また、絵手紙を描きご家族や、友人に送る支援をしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の歩行、寒くない場所、外の光がまぶしくないよう一人ひとりが居心地のよい席の配置であるよう心がけています。また、庭には四季折々に花や樹木が彩り季節が楽しめます。	共有スペースの大きい窓からは、桜や桃の花など季節に応じた風景を楽しむ事ができ、利用者間の関係性にも配慮し落ち着けるテーブルの配置にしている。清潔なトイレや家庭浴槽、利用者作成の絵手紙や習字等飾られ、家庭的な雰囲気作りに工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でもそれぞれが過ごせるよう支援しています。また、気のあったご利用者同士が隣になるよう工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに合った居室であるよう配慮しています。また、好みのものや、ご自分で作った作品を飾ったり、使い慣れた物をつかい、居心地よく過ごせるよう心がけています。	居室からは、見慣れた田園風景が眺められ、全体的に明るく、温かみを感じられる。趣味の本を読んだり、横になり休憩する利用者等、一人ひとりの生活に合わせて居心地良く過ごされる様に居室づくりが行われている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋割りも含め、一人ひとりが安心して安全に過ごせるよう工夫しています。また、レイアウトを工夫しご本人の自立を支援しています。		

目標達成計画

作成日：平成28年3月13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		本人らしい生活をするための方法や手順がうまく機能しておらず、業務の中でその人らしい生活場面の構築が場当たりの対応になっている。	本人及び近い関係者の希望する生活や要望を記録し(モニタリング用紙)職員間で話し合いや確認を行い本人らしい暮らしの支援に反映させる。	定期的に行われるモニタリングの際、現在の生活に対する希望を用紙に記入し、職員間で共有する。また、家族親族等の要望、希望を面会時や電話連絡時に聞き取り用紙に記入して職員間で共有する。記録したモニタリング用紙を元にして、月1回のヘルパー会議で要望に答えられる支援を相談、確認する。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。